

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	霧ヶ峰「彩り草原空間」構築プロジェクト（長野県霧ヶ峰地域）		
(2) 実施団体名	霧ヶ峰自然環境保全協議会	(3) 対象地域	長野県 諏訪市・茅野市・下諏訪町（霧ヶ峰地域）
(4) 代表団体名	諏訪市	(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査	
	実施主体	霧ヶ峰自然環境保全協議会	
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>1 資源としての雑木・草の活用可能性調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：現地調査及び文献調査等 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び信州大学農学部、長野県環境保全研究所 取組の目的：霧ヶ峰の雑木・草の活用可能性、新たな経済価値を探る。（笹を含む。） <p>2 湿原環境検討調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：現地調査及び検討会議によるとりまとめ 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び諏訪市内 取組の目的：霧ヶ峰の湿原の課題とそれに対する取組方法について研究者の知見をとりまとめる。 <p>3 植物種分布調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：霧ヶ峰内6地区における現地調査及びとりまとめ 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び研究者の研究室 取組の目的：霧ヶ峰の地区別の植物種の分布を把握する。 <p>4 外来種対応に関する実験調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：霧ヶ峰における駆除実験及びとりまとめ 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び信州大学農学部 取組の目的：霧ヶ峰にふさわしい外来植物の駆除方法を探る。 	<p>1 資源としての雑木・草の活用可能性調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：現地において採取した試料を分析するとともに、衛星画像からバイオマス量を推定した。また文献調査を合わせて行った。 なお、雑木・草のバイオマス活用に調査を絞ったため、笹の薬効については分析しなかった。 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び信州大学農学部 取組の結果：霧ヶ峰の二次草原の推定バイオマス量が約3.625トンであることが把握された。また、雑木・草の堆肥、エネルギー資材等としての活用の可能性が整理されるとともに、遷移が進んだ草原のバイオマス量の長期的な把握が必要であることなど利用の課題が把握された。 <p>2 湿原環境検討調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：現地調査により、植生、野生動物による被害及び水質の現況を把握した上、検討会議を開催して研究者の知見をとりまとめた。 実施時期：平成20年8月～12月（検討会議は10、11、12月の3回開催） 実施場所：霧ヶ峰及び諏訪市内 取組の結果：現況把握の上、研究者が湿原環境保全対策を提言した。普段立ち入れない天然記念物内を調査でき、湿原の乾燥化、野生動物被害等の対策の必要性が再認識された。 <p>3 植物種分布調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：現地踏査により出現植物を把握、研究室で整理した。 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び研究者の研究室 取組の結果：霧ヶ峰の6地区について431種の植物の目録が整理され、今後霧ヶ峰の植物相の変化を把握するための基礎データが得られた。 <p>4 外来種対応に関する実験調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：抜き取り、刈取り、除草剤塗布の3つの方法について比較検討した上、刈取りの方法について実験を行いながら整理した。 実施時期：平成20年8月～12月 実施場所：霧ヶ峰及び信州大学農学部 取組の結果：霧ヶ峰における外来種対応としては刈取りの方法が最適であること及びその具体的実施方法が整理された。
取組②	ピーク対策実験調査		
実施主体	霧ヶ峰自然環境保全協議会		
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<p>1 ビーナライン通行量・利用客動態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：通行量調査等及びアンケート調査と集計分析（調査委託） 実施時期：平成20年8月～10月 実施場所：霧ヶ峰 取組の目的：ビーナラインの通行量、渋滞状況及び霧ヶ峰内での利用客の動き、霧ヶ峰に対する利用客の意識・ニーズを把握する。 	<p>1 ビーナライン通行量・利用客動態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容：通行量調査等及びアンケート調査と集計分析（調査委託） 実施時期：調査 平成20年8月23日～8月31日（委託期間 8月20日～10月31日） 実施場所：霧ヶ峰（八島ヶ原湿原、強清水（霧ヶ峰IC）、車山肩、車山高原） 取組の結果：霧ヶ峰における人と車の動き及び利用客の意識・ニーズを把握するとともに、各地点の連携による利用分散の可能性等を把握できた。 	

	<p>2 公衆トイレ整備方法検討のための実験調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 仮設トイレ設置によるデータ収集と分析、考察(調査委託) 実施時期: 平成20年8月～10月 実施場所: 霧ヶ峰 取組の目的: 霧ヶ峰に最適なトイレの仕様を調査する。 	<p>2 公衆トイレ整備方法検討のための実験調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 仮設トイレ設置によるデータ収集と分析、考察(調査委託) 実施時期: 調査 平成20年8月20日～9月7日(委託期間 8月11日～10月31日) 実施場所: 霧ヶ峰(富士見台、車山肩、八島ヶ原湿原) 取組の結果: 霧ヶ峰に最適なトイレの仕様(洗浄水循環再利用方式)の提案や設置費及び維持管理費用の試算等がなされた。
取組③	オフピーク対策試行調査	
実施主体	霧ヶ峰自然環境保全協議会	
	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
実施内容、実施結果	<p>1 インタープリター発掘型エコツアーの試行</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: エコツアーの実務を知ってもらうためのプログラムの実施 実施時期: 平成20年9月～平成21年2月 実施場所: 霧ヶ峰 取組の目的: エコツアーの担い手としてのインタープリターの発掘 <p>2 専門家招聘による効果的な検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 作業部会への2分野の専門家の招聘(①自然公園における効果的な施設整備、空間構築分野、②エコツーリズム分野) 実施時期: 平成20年8月から12月 実施場所: 霧ヶ峰及び諏訪市内 取組の目的: 協議会の作業部会における効果的な検討 	<p>1 インタープリター発掘型エコツアーの試行</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: エコツアーの実務を知ってもらうため、現場でインタープリテーションの魅力とインタープリターの心構え等を知る特別のプログラムを実施した。 実施時期: 9月21日～2月15日(9月、2月は各1回、他の月は毎月2回実施) 実施場所: 霧ヶ峰(八島ヶ原湿原、強清水、車山) 取組の結果: 10回のエコツアーを実施し、1月18日までの9回で延べ108人が参加、10回合計では、延べ約120人が参加する見込み。これによりインタープリターの人材発掘ができた。 <p>2 専門家招聘による効果的な検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施内容: 2分野の専門家の招聘と作業部会での検討 ① 施設整備等: 東京大学アジア生物資源環境研究センター 堀繁教授 ② エコツーリズム: ワイルドライフコミュニティ研究所 南正人代表 NPO法人日本エコツーリズム協会 真板昭夫理事 実施時期: 8月22日(現地調査)～12月24日(作業部会) 実施場所: 霧ヶ峰及び諏訪市内 取組の結果: 2作業部会に専門家を招聘し、助言を得ながら霧ヶ峰における景観形成・施設整備の案及びエコツーリズム展開の案を作成した。
	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 霧ヶ峰自然環境保全協議会 (38団体(平成20年11月から39団体)で構成) 事業の計画、団体間の調整を行いながら、取組を主導した。また、3つの作業部会を設置し、各取組の成果を反映させながら検討を行い、霧ヶ峰再生のための基本計画を策定した。 うち景観形成・施設整備とエコツーリズムを担当する2部会に専門家を招聘した(取組③)。 信州大学(主担当: 取組①) 研究班を編成して、「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査の4調査を実施した。 諏訪市(主担当: 取組②) 環境省との契約における受託者になるとともに、ピーク対策実験調査について民間調査会社に再委託し、調査結果を協議会の検討に供した。 	<p>〈取組①〉 調査を実施した信州大学の研究者が協議会のメンバーであることから調査内容を随時作業部会に反映できた。</p> <p>〈取組②〉 民間調査会社に再委託したが、調査結果を協議会構成員が共有し、検討及び合意形成に役立てた。</p> <p>〈取組③〉 インタープリター発掘型エコツアーについては、協議会を構成する長野県、下諏訪町及び車山高原観光協会が運営するビジターセンターが連携して実施し、充実したプログラムを提供するとともに、平素インタープリテーションを実施しているスタッフの目を通してインタープリターの発掘ができた。</p> <p>また、霧ヶ峰自然環境保全協議会の作業部会では招聘した専門家の助言により議論が促進され、検討が効果的に行われた。</p>
	○成果1→ 本格的展開のための合意形成 = 『霧ヶ峰の今とみらい』(霧ヶ峰再生のための基本計画)策定	
	H19	H20(当初予定していた目標)
(8)取組により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> 霧ヶ峰の自然環境の保全再生計画が未策定 霧ヶ峰の景観形成・施設整備の考え方が未統一 霧ヶ峰エコツーリズムモデルがない 	<ul style="list-style-type: none"> 霧ヶ峰自然環境保全協議会により「霧ヶ峰保全再生計画」を策定 「“彩り草原空間”形成の基本構想」を合意 「霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画」を策定
	H20(実際に得られた成果)	
	<p>* H20年12月まで: 霧ヶ峰自然環境保全協議会に3つの作業部会を設置して検討を進めた。それに当たっては、地方の元気再生事業の各取組の成果を随時反映させ、また、2つの作業部会に専門家を招聘して助言を得ながら協議した。その結果、「霧ヶ峰保全再生計画」、「霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想」、「霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画」の3つの計画の案がまとまった。</p> <p>* H21年2月18日: これら3つの計画からなる『霧ヶ峰の今とみらい』(霧ヶ峰再生のための基本計画)が霧ヶ峰自然環境保全協議会で合意される。</p>	

	○成果2→ 担い手育成・協働拡大の基盤づくり	
	H19	H20(当初予定していた目標)
	・ インタープリター養成の取組がなされていない ・ 霧ヶ峰の保全活動参加者数 年間約1,300人	・ インタープリター発掘型エコツアーを実施 参加者数の目標 150人 ・ 保全活動参加者数 年間1,550人(約2割増)、併せて保全活動区域の拡大
	H20(実際に得られた成果)	
	* インタープリター発掘型エコツアーを10回実施し、1月までの9回で延べ108人が参加した(2月までに合計 延べ約120人が参加する見込み)。これにより来年度のインタープリター養成講座等を通じインタープリターとして育つ人材を発掘できた。 * 保全再生活動への参加者数は、4月～12月で約1,650人(H19比 約127%)、また、雑木処理、外来種駆除等の区域が拡大した。	
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	○ インタープリター発掘型エコツアーの参加者は、当初150人を目標としていたが、実績(見込み)は、約120人である。これは、当初、自然学習に関心を持つ高齢者を含め、幅広い層への参加案内を予定していたが、将来インタープリターとして実際に活動してもらえる人材の発掘に重点を置きたいとの考えから、常日頃から霧ヶ峰の環境保全のための活動を実践している人や大学生等を優先させて参加者を募ったためである。 これにより参加人数(見込み)は、目標をやや下回るが、インタープリターの人材発掘の目的は十分達せられたものと考えている。 また今後は、人材養成に加え、霧ヶ峰の自然・歴史に即した多様で魅力的なエコツアープログラムの開発と展開を本年度の基本計画に基づき行うこととなる。 ○ 地方の元気再生事業の運用スケジュールに基づき、平成20年度は8月からの事業実施となった。霧ヶ峰の利用ピークは7月から始まることから、平成21年度は早期に着手し、ピーク対応の取組を強化するとともに、平成20年度の成果を踏まえ、実用化実験や本格展開の基盤づくりに力点を置いた取組が必要になる。 ○ 湿原調査、植物種調査、外来種調査についても、より正確なデータを得るため6月には調査に着手する必要がある。平成21年度は研究者が本年度の調査を引き継ぎ、春から秋までのより長期の調査で更にデータを取得する計画である。また、雑木・草の資源活用については、実用化の実験へと移行する計画である	
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度
	《平成21年度》	《平成21年度の展開》
	1 実用化実験 ◇ 雑木・草の資源活用パイロット事業実験 ◇ シャトルバス運行実験 ◇ ピーナスライン通行量・利用客動態調査 ◇ 公衆トイレ整備方法検討調査	1 実用化実験 実施主体：霧ヶ峰自然環境保全協議会 □ 実用化実験としての雑木・草のバイオマス利用実験(バイオエタノール等) □ 渋滞対策のためのシャトルバス運行実験、通行量・渋滞等調査(年度の早い時期に事業着手できる場合)
	2 エコツアーの担い手育成の本格化・歩いて味わう霧ヶ峰文化の醸成 ◇ エコツアー試行拡大 ◇ インタープリター養成講座の開催 ◇ エコツアー講座の開催	2 エコツアーの担い手育成の本格化・歩いて味わう霧ヶ峰文化の醸成 実施主体：霧ヶ峰自然環境保全協議会 □ 人材育成のためのインタープリター養成講座の開催(座学及びエコツアーにおける実技) □ 事業者、住民等多くの人にエコツーリズムを理解してもらうためのエコツーリズム講座の開催 □ 「歩く霧ヶ峰」推進のためのGPS携帯端末による案内・情報提供と利用客誘導・利用分散実験
	3 全国発信、一般住民・利用客の理解の促進 ◇ 『霧ヶ峰の今とみらい』(PR版)の印刷・配布、効果調査	3 『霧ヶ峰の今とみらい』の全国発信、一般住民・利用客の理解の促進 実施主体：霧ヶ峰自然環境保全協議会 □ 霧ヶ峰の自然・歴史への理解促進、情報発信、参加者募集等に活用する霧ヶ峰ポータルサイトの構築 □ ポータルサイト、案内板・看板、パンフレット等に統一的に使用する霧ヶ峰のロゴデザイン □ 霧ヶ峰を訪れる観光客の理解促進のための「歩いて味わう霧ヶ峰」のリーフレット作成・配布、効果検証 □ 映像により分かりやすく霧ヶ峰への理解を促進するためのDVDコンテンツ作成 〔活用を希望する制度：以上1～3について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額 1,500万円)〕 ※ 霧ヶ峰ポータルサイト構築後のサイト運営費(サーバー借上げ、維持管理費等)は、保全協力金等の収入による自主財源を充てる予定
	《平成22年度～》 「霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト」の本格展開 ◆ 「草原」「湿原」「樹叢」保全再生プロジェクト 霧ヶ峰の自然環境の保全再生事業(採草、雑木処理、火入れ等)の実施 ◆ “彩り草原空間”形成プロジェクト 霧ヶ峰を魅力ある“彩り草原空間”とするための景観形成、施設整備等及び霧ヶ峰の保全と利用を両立させるためのソフト対策 ◆ 霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築プロジェクト 霧ヶ峰ならではのエコツアーの本格展開	《平成22年度以降の本格展開》 当初提案で予定したとおり、左記事業を本格展開していく。 それに当たっては、平成20年度の『霧ヶ峰の今とみらい』の合意に基づき、事業の本格展開の中核となる公園管理団体の設立を計画し、同団体と霧ヶ峰自然環境保全協議会が車の両輪となって取り組む。事業の実施は、公園管理団体のコーディネートに基づく協議会構成団体による事業実施のほか、全国の企業、団体、個人の経済活動(霧ヶ峰の資源の活用)を通じた参画やボランティア、参加体験型エコツアーでの参加等を募る。 〔活用を希望する制度：自然環境整備交付金(環境省)・・・保全再生、施設整備等(事業費については、具体の事業を検討する際に算定)〕

霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト(長野県霧ヶ峰地域)

—霧ヶ峰自然環境保全協議会—

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

◆主な実施取組の内容◆

【本格展開のための合意形成】

目指すべき100年後の霧ヶ峰の姿とそれを実現する手段の合意形成のため、下記の3つの取組を基に協議会で検討

- ・ 3つの作業部会を設置し、延べ18回の検討を実施
- ・ 4回の協議会(全体会議)で、すり合わせ、検討し、合意

《取組① 「草原」「湿原」「樹叢」保全実験調査》

資源としての雑木・草の活用可能性、
湿原環境、植物種の分布、
外来種への対応方法を調査

《4つの報告書》

バイオマス量の把握、湿原環境
保全対策の提言、植生データの
取得、外来植物対策の提言

《取組② ピーク対策実験調査》

通行量・利用客動態調査
公衆トイレ整備方法検討

《2つの報告書》人と車の動き及び各
地点間の連携可能性の把握、霧ヶ峰に
適した公衆トイレの仕様・費用の把握

《取組③ オフピーク対策試行調査》

専門家招聘による効果的な検討：
霧ヶ峰自然環境保全協議会の景観形成・施設整備
及びエコツーリズムを検討する作業部会に招聘
(このほかに保全再生部会が取組①を基に検討)

《作業部会の案》

霧ヶ峰保全再生、施
設整備、エコツーリズ
ムモデル構築の計画

霧ヶ峰自然環境
保全協議会

協議・検討
合意形成

3つの作業部会で
詳細検討

【担い手育成・協働拡大の基盤づくり】

《取組③ オフピーク対策試行調査》

「インタープリター発掘型エコツアー」の試行

《10回の「インタープリター発掘型エコツアーの実施」》

インタープリター(霧ヶ峰を訪れる人たちにその自然・歴史
を理解してもらい、霧ヶ峰を満喫してもらうための良質な
ガイドを行う人)の活動に興味を持つ人たちが 120人が
参加。インタープリターの卵を発掘した。

《協働拡大の取組》

霧ヶ峰自然環境保全協議会を通じて保全再生についての
諸団体の取組の連携を促進した。

霧ヶ峰保全再生
活動参加者数

平成19年度

平成20年度

約1,300人

→ 約1,650人



◆取り組み実施による成果・今後の展開◆

【成果】 ① 『霧ヶ峰の今とみらい』(霧ヶ峰保全再生計画、霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想、霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画の3つから成る霧ヶ峰再生の基本計画)の策定 = 民間・行政を包括する協議会による合意形成 [平成21年2月]

② エコツアーの本格実施に必要なインタープリター人材の発掘 ③ 多くの人の参画と協働による霧ヶ峰保全再生活動の拡大

【今後の展開】

- 平成21年度
- I 実用化実験 (バイオマス利用、環境配慮型トイレ等)
 - II エコツアーの担い手育成の本格化、歩いて味わう霧ヶ峰文化の醸成
 - III 『霧ヶ峰の今とみらい』の全国発信、一般住民・利用客の理解の促進



平成22年度～ 霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクトの本格展開
〈自然再生、景観形成・施設整備、霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築〉